

の谷本先生からは、暗算の初歩指導に関する実践発表がありました。

見取暗算の指導開始は十級の検定試験問題の半分の時間でできるようになり、考えなくても自然に指が動くようになってから、かけ暗算の指導は珠算六級のわり算ができるようになってからだそうです。

この中で、指導における注意点について、三点ほどお話がありました。

一点目は、暗算練習ははじめのうちには点数を気にさせない、ということだそうです。

点数を気にすると、子供たちは無理に合わせようとして、そろばんのイメージによる暗算をしなくなる可能性があるからとのことでした。

二点目は、子供たちを徹底的にほめる、ということでした。大人になって褒められて悪い気がする人はいません。子供たちとにかくプラスの言葉のシャワーを浴びせ、やる気を出させているそうです。

三点目は、保護者からのクレームを大事にしているということでした。子供が六級の習得に苦勞しているある親から次のようなメールが来たそうです。「子供がやる気になる授業をしてください」と。

保護者からわざわざ言われなくとも、と思えるような内容です。それでも、これをクレームととらえず、ありがたい言葉ととらえるとよいというアドバイスでした。

期待してくれていない親は不満の声をあげる必要もなく黙って去ってしま



う。不満の声を上げてくれるということは、期待されている証拠と考え、よりよい授業を作るきっかけにされているそうです。

結びの言葉では、暗算指導に対する決意を述べられていました。指導はとにかくマンネリにならないように、楽しく元気に前向きに。楽しくとは、もつとやりたい、上手になりたい、難しい問題に挑戦したいという知的好奇心を引き出してあげること。

また、暗算指導は結果が全てで、一生懸命に指導しても、出来るようにさせなければ全く意味が無い。医者でいえば、一生懸命に治療しても患者の病気が治らないのと同じことであると。

なかなか出来るようにならない子もいると思うのですが、全員に暗算力を付けさせなければいけないという、その強い決意が、教室のレベルアップに繋がっているのだと感じました。

谷本先生は最後に、そろばん学習は計算力・暗算力だけでなく、人間力を付けさせることも目標であると付け加えられました。

谷本先生の発表から、今後の授業のヒントをたくさんいただくことが出来

たと思います。

〔実践発表〕

『幼児のそろばん指導』

大阪府 田中三智子先生

大阪の田中先生からは、積極的に幼児を受け入れている教室の実績を背景に、幼児のそろばん指導のポイントについて詳しいお話がありました。

このお話の中でも印象深かったのは、小さいからといって出来ないというのは大人の間違いで、幼児は小さくても一人前、ということでした。

幼児用のクラスは特に設けず、一年生と一緒にやらせることでライバル心に火をつける。たとえ三歳でも挨拶から学習準備までひとりで行らせる。

また、幼児でも授業中に練習をしなければ五分間の居残りをさせ、(親にはあらかじめご了承をいただいた上で)泣いても教室から出さないといいことを徹底されているそうです。

小さいからといって甘く見ないで、本気で取り組むことで、幼児でもきちろりと指導できるということでした。

また教室では、入会時に個人カルテというものを作成され、一ヶ月に一回、日頃の教室での様子を記入した上で保護者に渡し、返信として子供への励ましコメントをもらっているとのこと。家庭とのやり取りを密にすることも、幼児の指導のポイントになるそうです。

最後に、子供の力を借りながら、こ

れからも楽しくそろばんを教えていきたいと結ばれていました。

〔実践発表〕

『応用計算の魅力』

兵庫県 立花晴美先生

実践発表の最後は、生徒全員に応用計算を指導をされているという立花先生の発表でした。

応用計算は、同じ級でも理解の個人差が大きく、全員指導がなかなか難しい種目だと思いますが、全員にきっちり教え、しかも公式の丸暗記ではなく理解をさせているそうですから驚きです。

私の教室では、低学年の生徒への応用計算の指導を躊躇しているのですが、立花先生の教室では、学年は関係なく指導をされているとのこと。当該級に合格できる生徒であれば、年齢に関係なく理解できるからだというお話で、早速教室でも実践してみようと感じました。

また、応用計算を指導しているということは、入塾時の保護者へのアピールポイントとして大変重要だそうです。

多くの保護者の方は、そろばんをやって計算が速くなることは理解しているけれども、それだけでは今ひとつと感ぜられているそうです。特に珠算を習ったことのある方にその傾向が強いということでした。

応用計算を指導することを説明するだけで、「学校でも役立ちますね」、「計算だけではないのですね」と、保護者